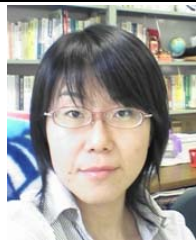



研究者総覧：勝川 裕子 (KATSUKAWA, Yuko)

氏名	勝川 裕子 (KATSUKAWA, Yuko)	
職名	准教授	
所属講座	国際多元文化専攻東アジア言語文化講座	
学位（専攻分野）	博士(文学)・名古屋大学	
メールアドレス	yuko-k@lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/katsukawa.html	
研究分野	中国語学	
	中国語教育	
	日中対照研究	
現在の研究テーマ	中国語の可能表現に関する研究	
所属学会	日本中国語学会	
	中国語教育学会	
	日中対照言語学会	
主要著書・論文	「“領主属宾句”における領属の認知的解釈」、『中国語学』250号、日本中国語学会、pp.137-150、2003年。	
	「〈NP ₁ 的NP ₂ 〉と数量詞の現れる位置 — “张三的一张照片”と“一张张三的照片”」、『平井勝利教授退官記念 中国学・日本語学論文集』、白帝社、pp.50-65、2004年。	
	「主語・賓語間の領属関係と照応形式」、『中国語教育』第4号、中国語教育学会、pp.133-147、2006年。	
	「現代中国語における領属タイプと不可譲渡性」、『言語文化論集』第29巻第2号、名古屋大学大学院国際言語文化研究科、pp.391-404、2008年。	
	「可能の助動詞“会”の属性描写機能」、『日中言語対照研究論集』第13号、日中対照言語学会、2011年（近刊）。	
自己紹介文	<p>言語の表現形式はその言語を使用する民族集団の事象・現象・心象に対する認識を反映しているといえます。私の研究では、中国語において点的に存在する種々の言語現象を領属範疇から捉え直すことで、これらを有機的に関連づけると共に、中国語話者の〈領属物〉に対する認知パ</p>	 <p align="center">愛用のチェロ</p>

	<p>ターンとそのプロトタイプ効果を明らかにすることを目標としています。現在は、特に領属物としての〈能力〉とその発現に注目しており、中国語において能力の発現—即ち〈可能〉の事態がどのように認知され、どのように言語化されるかを、領属範疇、可能範疇の観点から双方向的に考察することを通じ、中国語の可能表現をより合理的かつ包括的に体系化することを目指しています。</p> <p>趣味は料理と楽器演奏。小学生の頃からブラスやオーケストラでトロンボーンを吹いてきましたが、三十の手習いでチェロを習い始めました。しかし、現在は育児に追われ封印中。将来、市民オケに参加することを夢見ています。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>私は「言葉」が好きで、中国・中国語が好きで、教育の現場が好きで…と好きな事を続けていたら、気づけばこの世界に入っていました。現代中国語文法を専門としていますが、母語である日本語との対照は意識的・無意識的に必ず付いて回ります。また、教育現場で拾ったネタの研究成果は何らかの形で現場に還元したいと考えています。従って、日中対照研究や中国語教育にも関心があります。</p> <p>前期課程の受験を考えていらっしゃる皆さん。研究は基本的に孤独で地道な作業です。しかし、何からどう手をつけたらいいのか、この方向で間違いないのか等不安に感じた時、周りには互いに支え合い、議論できる仲間がいます。叱咤激励し（時にはプレッシャーを与え）アドバイスしてくれる教員もいます。そのような同志と共に、自らが心惹かれてやまない対象を掘り起こし、追究していきましょう。</p> <p>そして、修士論文を執筆する過程で、少しでも「研究って面白いかも?!」と感じた皆さん。その先には、さらに面白く、苦しい世界が待っています。慌ただしく人生が過ぎる中で、ひとつのことをトコトン突き詰めて考えることのできる時間・空間というのは、ある意味「贅沢」ですね。そんな贅沢を噛みしめながら、一步一步、自分の研究を深めていってください。</p>



学生と水餃子パーティ